

令和6年度 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 確かな学力と高い専門性を育む教育活動の推進(基礎学力および高い技術・技能の習得と学ぶ意欲の向上)
- 2 将来のスペシャリストとしての総合的な資質・能力を育む教育活動の推進(優秀な工業人材の育成)
- 3 活力に満ちた特色ある学校づくりの推進(課外活動の活性化と生徒の活躍できる舞台作り)
- 4 ゆめづくりとその実現にむけた教育活動の推進(理想の進路の具現化)
- 5 信頼される学校づくりの推進(業界・地域からの高い評価と満足度の高い学校づくり)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① わかる授業について	B	7月に行われたみやぎ学力状況調査より、授業がわかる生徒の割合は、1学年64.3%(前年比9.6%減、県平均59.8%)、2学年62.3%(前年比6.0%増、県平均57.5%)となり、1学年では減少し2学年では減少した。学校評価アンケートの「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられる授業実践を行っている」で生徒85.3%保護者93.1%「授業を通じて、知識・技能が身に付いている」の質問では生徒90.4%保護者95.6%の肯定的評価を受けているが、教職員の自己評価はそれぞれ3.6%7.5%減少している。次年度は、より「わかる授業」の実践へ向けて教員研修をおこなうとともに、生徒には「自ら学ぶ姿勢」の大切さを理解させた。	A	A
	② 授業時間の確保について	B	今年度も昨年度とほぼ同年間授業日数とし、授業時数も同程度確保することを計画した。その結果、コロナ禍以前(1,2学年で192日程度)を上回る授業日数(1,2学年で195日)となっている。新型コロナウイルス禍からの正常化に伴ない、学校行事の充実をはかりつつ、授業時間の確保も両立させていきたい。また、次年度は臨時休業等による授業日数減少の防止と授業時間の確保を念頭に休業日数を2日減らして年間行事予定を組んでいる。	A	A
	③ 授業の取り組みについて	B	落ち着いた学校生活を送り、熱心に授業へ取り組む生徒が多数である。しかし、多様な生徒が入学するようになり、従来の学習指導(学習支援シートや追指導)だけでは支援が難しくなっている。本校からの転退学事由でも学業(特に専門科目)でつまずきが一定数を占めることから、きめ細かくタイムリーなサポートが必要である。また、クラスの間関係等の理由で欠席がちになる生徒も多く、教育相談部、SC、SSWとの連携も続けていきたい。多様な学習ニーズに対応した学び(オンライン双方向授業等)については7月に校内の規定を整備した。	A	A
	④ 日常の学習時間について	B	今年度の平日における家庭での学習時間は1学年57分(R5 67分、県平均59分)、2学年42分(R5 46分、県平均50分)となり昨年より減少した。特に1年生は10分も減少し、学習習慣が十分に身に付いていないことが分かった。本年から学習支援ソフトClassiを活用した朝学習をすすめ、その取組は概ね良好である。今後は、Classiを家庭学習にも活用し学習習慣向上の役に立たせたい。また、日常的に課題や小テストを課すことで、家庭及び学校における継続的な学習習慣を構築していきたい。	A	A

学校関係者評価委員会における意見
県工で何かを学ぼうという入ってくる生徒がいて、それを学び伸ばす方針が理解できた。

生徒指導	① 基本的生活習慣の確立	B	服装・頭髪について、小さな校則違反(学生服を着ないでアウターを着る等)は見かけることもあるが、概ね良好である。基本的生活習慣の定着や規範意識の向上を目指して、毎日の登校時における声掛けを励行し、全生徒の様子を確認出来るよう心掛けている。 問題を抱える生徒たちへの対応をきめ細かく実施し、引き続きSC、SSW等と連携し、生徒の実態と時代状況に適した指導を、組織的に構築していく。	B	A
	② 交通安全意識の高揚	B	昨年度の交通事故の件数は23件、今年度は13件となった。自転車での事故がほとんどであり、自爆事故も発生している。例年、1学年を対象に交通安全講話を実施している。また、警察と連携し、交通安全運動を年2回開催した。本校の生徒も生徒会及び通学委員会による定期的な啓発運動等に取組んでいる。今後、自転車マナー及びヘルメット着用の普及等、危険防止能力の育成を心掛けたい。	B	A
	③ 生徒の自主的活動の推進	A	各部活動・各科等素晴らしい成績を修めた。 ・技能五輪全国大会 ウェブデザイン 職種銀賞 ・宮城県高等学校新人剣道大会第3位東北大会出場 ・高校生ものづくりコンテスト2024 東北大会 旋盤作業部門 第3位 ・第19回若年者ものづくり競技大会 機械製図(CAD) 銅賞 ・空手部 東北大会出場 ・弓道部 東北大会出場 ・サッカー部 宮城県大会第3位	A	A
	④ 思いやりの心といじめ根絶	A	本年度のいじめの認知件数は0件であった(1月末現在)。日頃から担任を中心とする生徒の観察と、質問紙調査による早期発見に努め、多様化する生徒たちへの迅速な対応を心がけてきた。 昨年度に引き続き、定例のいじめアンケートだけではなく、保護者アンケートも実施し、家庭でしか見えない生徒の細かい変調も学校で把握することに努め、全職員で対応に当たっている。	A	A

学校関係者評価委員会における意見
町内会に70歳以上のいる世帯が460世帯ある。ひとり歩きをしている住民に県工生から挨拶の声掛けがあると良い。昔は人が人を育てる時代だったが、現代は機械で調べることで人としての幅が少なくなったと思う。学校の現場で、人が人を育て、人としての成り立ちを得る機会を設定して欲しい。

進路指導	① 進路目標の明確化に向けた適切な指導	B	各学年において、段階的な進路情報の提供及び各種ガイダンスや各学科と連携した説明会の実施。各種ゼミの実施。安易に進学を選択する生徒が増えていることから、進学する必要性を問い質す指導を行う。先生方の協力による継続的な取り組みを続ける。	A	A
	② 進路情報の発信と明瞭化	B	就職希望者については、就業地別の一覧表作成による求人票の公開やパンフレット等の閲覧室を利用した公開を行うと共にPDF化した求人票の利用を促進する。また、進学希望者については、普通教科の協力を得た進学ゼミ(英数国)の実施及び各種模擬テスト等の案内、指定校の情報公開を行う。	A	A
	③ 計画的な進路指導と志教育の推進	B	進路活動を通して社会性や労働観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方につなげられるようにする。進学者の増加に伴い、進学情報も充実させられるよう受験雑誌「蛍雪時代」の定期購読を行う。	A	A
	④ 進路目標の早期確立	B	進路調査や適性検査などを通して、自己の適性を知り、将来自分が就きたい職業について探求させる。また、2年次のキャリアセミナーや進路別合同説明会、大学の出前授業などを通して、明確な進路目標を決定できるようにする。加えて、3学年の状況は2学年主任、1学年主任にも伝えることで共有し、各学年で進路目標の早期確立の一助とできるよう努める。	A	A
	⑤ 希望進路の達成	A	民間企業への就職希望者は146(県外は54)名で全員内定をいただいている。進学は、大学・短大が71名、職大6名、専門学校等30名であり、まだ1名、大学一般受験の生徒がいる。公務員も4名が合格している。今年度は就職希望者が58.5%で、進学希望者が41.5%であった。一社目での内定率は95.8%と高かった。進学についても国公立合格者が9名と各学科の指導が成果を上げている。このような結果を継続できるよう、努力していきたい。	A	A

学校関係者評価委員会における意見
就職者の割合が増えたことに安心した。大学進学後のことを生徒に知識として与えるなど、適切な進路指導を願う。弊社は派遣社員を採用することも難しいのが現状で、社会は若い力を欲しているので協力を願いたい。

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① P T A が生徒達を後押しするための支援強化。	P T A の方々の協力をいただき、挨拶や交通安全の励行に繋げたい。同時に、本校生徒、P T A の方々、地域住民の方々とコミュニケーションを通じて、生徒の人間性を成長させるひとつの手立てとしたい。また、地域社会との共生を通じて、よりよい関係性を築き、各種行事を通じた交流を続けて、開かれた学校作りの一助としていきたい。
② 地域社会との連携強化(町内会や外部団体など)。	